

報道関係者各位

2019年10月16日

2019年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」 建設・住宅・不動産部門で9回連続10回目の1位を獲得

大東建託株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:小林克満)は、公益社団法人日本証券アナリスト協会(以下、アナリスト協会)が実施する、2019年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定※」の建設・住宅・不動産部門において、9回連続10回目となる第1位を獲得しました。

※公益社団法人日本証券アナリスト協会が実施する制度で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目的に1995年から継続。証券アナリストの立場から、企業のディスクロージャーの質、量、タイミング等の優劣を判断するための客観的な評価基準を策定し、これをもとに優良企業を選定。

■評価ポイント概要(選定結果通知資料より抜粋)

1)経営陣のIR姿勢等(1位)

- 社長が説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加している
- IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができる
- 情報開示を後退させることなく、より積極的に行っている

2)説明会等(1位)

- 説明会、短信および説明会資料等において、実績および計画を明記し、理解を深めるような十分な説明がされている
- 質疑に対する会社側の回答が十分満足できる
- 部門別の受注、利益率、売上げ見通し等が十分開示され、連結子会社・海外事業等の資産・負債・収益の状況が十分に説明されている
- 四半期決算の理解に必要な補足資料が十分に開示されている

3)フェア・ディスクロージャー(1位)

- 投資家にとって重要と判断される事項を迅速に開示している
- 説明会資料やデータが英語でも公平かつタイムリーに入手が可能である
- 説明会の音声配信、質疑応答要旨の開示により、十分な期間の視聴等が可能である
- 英語による情報提供が公平かつタイムリーで、日本語と同等の内容である

4)コーポレート・ガバナンス関連(1位)

- コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されている
- 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されている
- 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されている

5)自主的情報開示(2位)

- 賃貸住宅や施工現場の見学会等を積極的かつ公平に開催している
- マネジメント等の発言内容等が迅速かつ公平に開示されている
- 非財務情報(ESG情報、統合報告書等)の開示に積極的に取り組んでいる

ディスクロージャー
2019年度 優良企業



公益社団法人
SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

ディスクロージャー優良企業に贈られる
「優良企業ロゴマーク」

(参考)当社のこれまでの順位

年度	順位
2019年度	第1位
2018年度	第1位
2017年度	第1位
2015年度	第1位
2014年度	第1位
2013年度	第1位
2012年度	第1位
2010年度	第1位
2009年度	第1位
2008年度	第2位
2007年度	第3位
2006年度	第1位

※2011年度・2016年度は、建設・住宅・不動産部門での評価は休止

<本件に関するお問い合わせ>

大東建託株式会社 広報部 TEL:03-6718-9174